

平成 25 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」
成果報告書

団体名	秋田県教育委員会
-----	----------

概 要

1 事業の概要

(1) 県の概要

- ・「かがやき手帳」（個別の相談記録手帳）、就学支援シート及び個別の教育支援計画の活用促進
- ・市町村教育委員会と協働した、就学や教育に関する相談会の実施
- ・推進地域における支援体制の他地域への普及

(2) 推進地域の概要

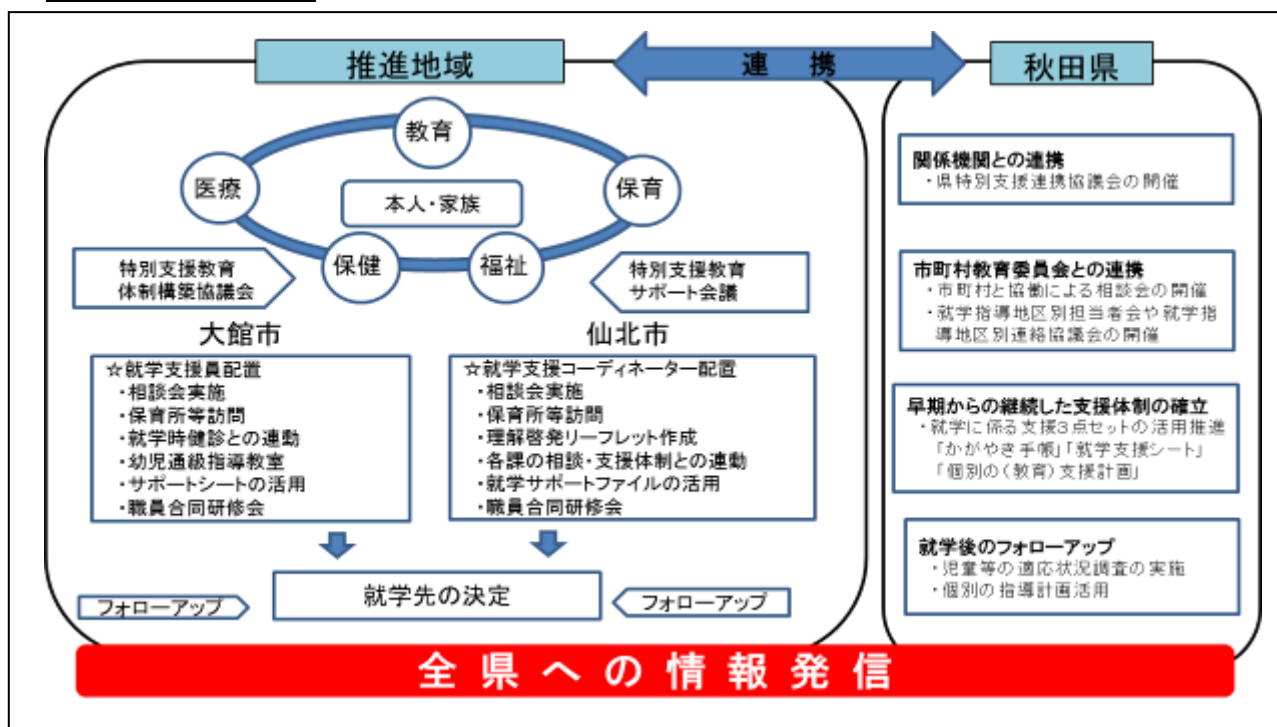
<大館市>

- ・特別支援教育体制の一元化（福祉部子ども課の新設、各種健診・検査の連動）
- ・5歳児相談会及び幼児通級指導教室の充実
- ・幼稚園・保育所等における特別支援教育体制の構築

<仙北市>

- ・特別支援教育サポート会議を中心とした関係各課との連携体制の構築
- ・就学サポートファイルの作成と活用の促進
- ・早期支援に関する理解推進（理解啓発リーフレット配布、合同研修会の実施等）

<事業の概念図>



2 事業の成果

(1) 県の成果

- ・ 事業成果の普及により、就学支援シート、5歳児健診（相談会）の実施市町村が拡大した。
- ・ 市町村教育委員会と協働で就学や教育に関する相談会を行ったことにより、市町村教育委員会の積極的な参画につながった。また、福祉、保健関係者等が相談会に参加する市町村が増え、関係機関との情報共有が有効に図られた。

(2) 推進地域の成果

<大館市>

- ・ 関係機関と協働で5歳児相談会を行ったことにより、関係者が情報を共有し合うシステムが確立され、各機関が連携した保護者支援の実現につながった。
- ・ 幼児通級指導教室の実施地区の拡大により、特別な教育的ニーズのある幼児に対する支援が充実した。また、就学支援員の就学先訪問により、継続した支援が効果的に行われた。
- ・ 幼稚園・保育所等の職員を5歳児相談会のスタッフとして活用することや、特別支援教育に関する研修会を行うことにより、幼稚園・保育所等の職員の、就学相談・支援や特別支援教育に関する理解が深まった。

<仙北市>

- ・ 就学支援コーディネーターが関係各課の職員と情報共有を行うことで、各課の連携が図られた。
- ・ 就学支援シートを作成・活用することで、就学前の情報の就学先への引継ぎがより着実に行われるようになった。
- ・ 幼・保、小・中学校、福祉及び保健機関合同での研修会により、各関係機関の取組を共有し合うことができ、早期支援の必要性の理解促進につながった。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

- ・ 事業成果の普及等により、特別な教育的ニーズのある幼児等に対する早期からの支援の必要性について、徐々に理解が進んでいる。今後も、先進地域での早期支援の取組成果を広く普及し、理解啓発を図ること等により、県内各地での支援体制の充実につなげていきたい。
- ・ 保護者の思いや願いに寄り添った相談、学校教育法施行令改正後の就学決定の仕組みの理解等、就学相談・支援に当たる担当者の専門性を向上させ、特別な支援を必要とする一人一人に応じた支援の充実を図る必要がある。そのための研修会の実施や、就学相談に関するリーフレットの活用等を、今後も推進していきたい。
- ・ 早期支援も重要であるが、就学後のフォローアップも課題である。就学支援シートや個別の教育支援計画の様式の提示、実際の活用事例の紹介等により、移行期の情報共有を円滑にし、関係機関同士が連携して支援する体制を強化していきたい。